

## 私は、松江農林高校出身です

本日、本校の卒業生会である『松農会』入会式が行われました。『松農』を“まつのう”と読む場合と“しょうのう”という場合の二通りの呼び方があり、赴任当初はどっちだろう？と迷ったこともありましたが、時間の経過とともに慣れてきました。今日は“しょうのう”会入会式です。2月10日に行ったのは、“まつのう”発表会でした。通常の読み方からすると、音読み+音読みの“しょうのう”が正しいのですが、校内では松江農林高校<sup>まつえのうりんこうこう</sup>を略した形で、湯桶読みとなる“まつのう”と表現しているのだらうと思います。では、卒業生会はなぜ松農会<sup>まつのうかい</sup>と呼ばなかったのが疑問に残ります。卒業生会の事務局長矢野先生にこの読み方の違いを聞いたところ、「松農会は、本校に大きなクスノキが2本あり、この香り成分が“樟脳（しょうのう）”ということもあって、松農会<sup>しょうのうかい</sup>としたのではないか。」ということでした。確かに、第1記念館と畜魂碑を見守るかのようにクスノキがあり、本校のシンボルツリーのような立派な樹勢と風情です。卒業生がこのクスノキのように大きく育ってほしいという願いを込めて松農会<sup>しょうのうかい</sup>とされたのでしょうか。名前には意味があることを改めて感じました。



明日卒業式を迎える138名がこの松農会<sup>しょうのうかい</sup>入会式に臨みました。本校は明治33年の開校以来、本年度で118年を迎えており、これまで19,953人の卒業生を輩出していますので、今年の卒業生で2万人を超えるということになります。環境土木科出席番号11番の生徒が記念すべき2万人目の卒業生となります。しかし、明日授与する卒業証書では、昭和23年の学制改革によって、旧制中等学校から新制高等学校に切り替えられた時からの卒業生数をカウントしていますので、15,337番から15,514番が記載されています。

特に今年度の卒業生は、3学科4クラスになった平成11年度以降最も少ない卒業生数ですので、6学科8クラスあった昭和43年の339名、5学科5クラス設置時で最も少なかった平成6年の154名、現在の3学科4クラス規模では、平成12年の146名を下回る、おそらく松江農林高校の歴史上最も少ない卒業生数となっています。今年の卒業生が入学した年は、3学科とも定員を割り、160名の定員に対して140名の入学という、これも松江農林高校では近年にない出来事でした。本校の魅力がなくなってきたのか、中学生やその保護者から敬遠されたのか、理由はいろいろとあると思いますが、3年前はそうでした。

今年の卒業生はこの人数が少ないということを感じさせないほど積極的に様々なことに取り組んでくれた学年だったと思います。地域や関係機関と連携した研究活動の推進をはじめ、自分たちだけの取組ではなく、地域等を巻き込んだ交流活動やボランティア活動を積極的に行ってくれました。総体でも過去5年間で最もいい成績を収め、生徒による新しい企画や改善した取組による収穫祭の充実などこれまでの松江農林高校の学校文化に新しい風を吹き込んでくれた学年でした。

卒業生一人一人が、松江農林高校出身というブランドを自信に、シンボルツリーのクスノキのようにしっかり胸を張ってこれからの道を切り開いていってほしいと願っています。

